



東 俣 野 9月号

東俣野小学校 学校だより 令和8年8月31日

“対話から始まる 学校づくり”

校長 幸保 陽子

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休みを経て、少し成長した子どもたちの姿をうれしく感じています。

さて、夏休み後に行われた学校運営協議会に、運営委員会の子どもたちが参加しました。テーマは、「学校の素敵なおところ、そして、さらによりよい学校にするためにできること」です。

子どもたちは、日頃の学校生活を振り返り、「友達と仲良くできるところ」「みんなで協力して行事に取り組むところ」「地域の方が学校を支えてくださっているところ」など、自分たちが感じている学校のよさを出し合いました。

そして、地域の皆様にその思いを伝えるとともに、「もっとこんな学校にしたい」「こんなことができれば、さらによくなるのではないかと」、これからの学校について一緒に考えました。

ここで大切にしたのは、「対話」です。

対話とは、ただ自分の考えを伝えることではありません。相手の話に耳を傾け、自分とは違う考えや見方に触れながら、もう一度自分の考えを見つめ直していくことです。

例えば、子どもたちにとっては当たり前だと思っていた学校の一場面が、地域の方から見ると「学校の素敵なおところ」かもしれません。反対に、子どもたちが感じていることを聞くことで、地域の方が初めて気付くこともあります。

だからこそ、子どもと大人が同じテーブルを囲み、それぞれの立場から学校について語り合うことには、大きな意味があります。

人と話すことで、自分の考えが変わることがあります。新しい考えが生まれることもあります。「そんな見方もあるんだ」と気付いたり、「それなら、こんなことができるかもしれない」と思ったりすることもあります。

今回の学校運営協議会では、子どもたちが地域の方と対話する中で、自分たちの学校を改めて見つめ、「もっとよい学校にするためにはどうしたらよいだろう」と考える機会となりました。

「この学校のここが好きだな」と思うこと。「もっとこうなったらいいな」と考えること。そして、その思いを誰かと語り合うこと。そんな一つ一つの対話が、学校をよりよくしていくきっかけになるのだと思います。

今年度、本校では「子どもたちが主役～見つける 考える やってみる～」を大切にしています。今回の子どもたちの参加は、その第一歩でした。

これからも、子どもたちの声を大切にし、保護者の皆様、地域の皆様と対話を重ねながら、「こんな学校にしたい」という思いを少しずつ形にしていきたいと思っています。

対話から始まる学校づくり。子どもたちとともに、これからの学校の姿を考えていきます。